

きれいな学校 輝く笑顔 ～J(授業)A(挨拶)S(清掃)MI(身だしなみ)N(仲間)～



大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

合唱祭での学びを生かした体育祭

校長 海江田 なぎさ

保護者や地域の皆様、新人体育大会、駅伝、そして体育祭と、お力をいただくことの多い10月でしたが、様々な形で御協力を賜り、ありがとうございました。みなさまのおかげで、無事、それぞれの取組を実施することができました。体育祭では、保護者の皆様に、駐輪場の整理や、校地周辺の見回り、補食の提供など、生徒たちのために多くの御支援をいただきました。重ねて感謝申し上げます。

大久保中の学校経営方針は、一言で言うと「生徒が（先生も）『大久保中に来たい』と思う学校づくり」です。そのための方策の一つが「他者との関わりから学ぶ機会をもつこと」であり、学校行事は、そのための大事な機会です。そこで目指す学びは、時に同調圧力を強いる安易な「一致団結」や、本番盛り上がりたければいいという単発のイベントを楽しむ姿勢ではありません。「人によって得意なものも考えも違うけれど、違いを乗り越えて力を合わせることで、一人ではつくれなかったものをつくりあげることができる」——そういうことを学ぶ場となること、そして、学んだことを日常の生活に生かしていくことを目指しています。

今年度の体育祭は、登校する時間帯の雨量から、生徒がどんな気持ちで登校してくるか、私は、正直とても心配でした。しかし、やって来た生徒は皆、にこやかにあいさつをしてくれ、自主的に体育館で放送の準備をしている生徒もいました。その様子から、「やれることを精いっぱいやろう。楽しもう。」という思いが伝わってきました。当日は、変則的な進行となりましたが、生徒の動きは素晴らしかったです。

- 予行のとき以上に、他学年の競技でも互いに懸命に応援し合っていた。
- 参加した競技では、順位が決まっても声を掛け合い、最後まで真剣に取り組んでいた。
- 係の仕事も含め自分の動きをしっかりと把握していて、予定が変わっても、バタつくことが一切なかった。
- 閉会式では、グラウンドが濡れていたけれど、それよりも生徒の話を聞くことに集中していた。
- 片付けの頃にはまた雨が降り始めたけれど、楽しみながら片付けようとする余裕すら見せてくれていた。

合唱祭を経て、助け合い、思いやろうという気持ちがさらに増え、どんな状況でも最大限の力を発揮しようと力を合わせられていたと感じました。日頃気づかなかった友だちの一面に気づいたり、自分のいいところを他者から認めてもらったり、自分がみんなのために役に立っていると感じる事ができた生徒もいたことでしょう。これからも、目指すところを生徒と職員がしっかりと共有し、様々な活動に取り組んでいきます。

書籍『ASUKA』モデルの誕生 いのちをつなぐAED』について

2011年、桐田明日香さんが駅伝練習中に突然倒れ、救命のチャンスを逃したまま帰らぬ人となりました。この悲劇を繰り返さないために、遺族と教育委員会、専門家が協力して、“迷ったらすぐに胸骨圧迫とAED”の指針を示した「ASUKA モデル」を生み出しました。私はその頃市教委にいて、「明日香さんのような悲しい事故を繰り返さない。」という、当時の教育長と遺族の方の思いに接してきました。当時のことを知る人は少なくなりましたが、風化させてはいけないと思います。

「ASUKA モデル」誕生の経緯、そして一つの命が残した大きな教訓と希望を伝えた本が10月に各校に贈呈されました。近日中に、本校学校図書館に配架します。

